

平成31年度事業計画

平成31年度は、平成29年度第6回理事会で議決した「経営健全化に向けた新たな取り組み」の2年目となります。

この取り組みの基本的な柱は、1. 適正な編成規模への見直し、2. 3年間での収支均衡の確保、3. その他の取り組みとなっており、とりわけて平成31年度は3年に1度の国際音楽コンクールの開催年となっており、平成31年度を含めた3か年間の収支を均衡させる重要な年度となっております。

「経営健全化に向けた新たな取り組み」の基本的な柱を着実に進めるとともに、継続的に依頼いただける演奏会の獲得やさらなる支援企業の拡大に鋭意取り組んでまいりたいと考えております。

また、クラシックファンの裾野を広げていくために各公演の企画内容を一層充実させてゆくと共に、更に地域に根差し愛されるオーケストラを目指してマーケティング戦略にも注力してまいります。

1. 仙台フィルハーモニー管弦楽団を編成し、及び維持すること

(1) 指揮者・楽団員の体制等

昨年度就任した常任指揮者・飯守泰次郎を中心に、レジデント・コンダクター・高関健、指揮者・角田鋼亮によるさらに充実した指揮者体制を維持してゆきます。

また楽団員については、30年度に実施したオーディションにより、コントラバスセクションに1名を、更に31年度には打楽器セクションのオーディションを実施し、1名を採用する予定です。

2. 交響管弦楽等を行うこと

(1) 定期演奏会

新たな指揮者体制2年目として、2020年のベートーヴェン生誕250周年を一つのゴールと定め、前年度に引き続き常任指揮者・飯守泰次郎によるベートーヴェンの交響曲演奏を柱として、「楽聖ベートーヴェンに影響を与え、また楽聖の水脈からつながっている多様な作曲家たち」というコンセプトのもと、優れた指揮者・ソリストとともに多彩な楽曲を高いクオリティによって紹介します。

今年度は、繰り返し演奏される名曲との再会（再演）、仙台・東北の聴衆にとっての新しい出会い（仙台フィル初演奏）、そして形を変えた／新たな魅力を得た懐かしい音楽との出会い（作品への新しいアプローチ）といった要素を加え、すべての回で聴衆と音楽の「一期一会の機会」を創出する公演を企画いたしました。

新しい出会いとしては、ヨーロッパで高い評価を得ている鈴木雅明が定期演

奏会に初登場、また山形交響楽団芸術監督を務める飯森範親も定期演奏会に初めて登場します。また作品としては、昨年圧倒的な支持を得た藤倉大の作品から「トカール・イ・ルチャール」を角田鋼亮が取り上げるほか、常任指揮者飯守泰次郎が長年温めてきた細川俊夫の管弦楽団作品を取り上げるなど新風を吹きこむことが注目されます。

また、3年に一度開催される仙台国際音楽コンクール開催年と連動して、同年度内の定期演奏会においていち早くコンクール両部門優勝者をソリストとして招くことも仙台フィルならではの特徴のひとつです。

(2) 特別演奏会

「サマーフェスティバル2019」は昨年好評であったオーケストラ主体の映画音楽作品をメインとしたMOVIEセレクションⅡを開催いたします。今回は昨年の照明を中心とした演出から一転して、映画に登場するヒロインをテーマにして、男女ナビゲーターによるトークを中心としてお届けします。久石譲のジブリ作品などの要素も加え、一層幅広い聴衆層の獲得を目指します。

「マイタウンコンサート in 岩沼」は、今年度から実施する岩沼市内の小学校へのアウトリーチ活動を連動させ、若年層の公演鑑賞の機会拡大を目指します。指揮者には岩沼第九に数多く出演し岩沼にも馴染み深い岩村力を、ソリストにはラジオ番組などで発信性の高いコンサートマスター西本幸弘を起用します。

今や世界中に活動の場を拡げている山田和樹と継続している山田和樹×仙台フィルシリーズ第6弾は、山田が敢えて取り上げてこなかったモーツァルトを気心の知れた仙台フィルとだったらという山田の期待に応えて、モーツァルト交響曲第41番「ジュピター」を中心としたオール・モーツァルトプログラムをおとどけします。

盛岡では、いままで毎年1月にニューイヤーコンサートを実施してきましたが、今年度から地元のニーズに応じて「第九」をスタートさせます。過去盛岡ではプロオーケストラが無いために実現することが叶わなかった第九公演ですが、昨年11月に盛岡市民文化ホール開館20周年で共演した盛岡の全合唱団体とのリレーションシップを基に、盛岡合唱連盟の協力を得て複数の合唱団から特別編成する合唱団と共に「盛岡第九」を実施します。

年末恒例の仙台における「第九」特別演奏会は、昨年に引き続き常任指揮者飯守泰次郎のタクトのもと飯守／仙台フィルが創り出す極上のベートーヴェン第九交響曲を東京エレクトロンホール宮城で開催いたします。

(3) 依頼公演

4月下旬、平成29年の初共演以来、久石譲からの熱いラブコールにより久石譲が各地域のオーケストラと毎春スタートする新企画「久石譲スプリングコンサート」の第一弾として福島県郡山市、山形県南陽市、宮城県仙台市で久石譲の

自作を含めた公演が実現します。5月にはアイリスオーヤマスペシャルコンサートが東京・サントリーホールで実施され、ミュージカル界のスター新妻聖子との夢のコラボレーションが実現します。2016年4月以来3年ぶりの東京・サントリーホールでの公演となります。9月には秋田県下、秋田市、由利本庄市、湯沢市、鹿角市において秋田県で絶大な人気を誇る合唱作品「大いなる秋田」を各地の合唱とともに共演します。

10月には日生劇場オペラ公演「ヘンゼルとグレーテル」の仙台公演に出演する予定です。12月31日には平成29年に続いてジルベスターガラコンサートが予定されています。

とりわけて平成31年度は、3年に1度開催される仙台国際音楽コンクールの開催年であり、仙台フィルはホストオーケストラとして国内外から集まる才能豊かな若き音楽家の音楽的サポート(オーケストラ伴奏)をヴァイオリン部門、ピアノ部門合わせて17公演に亘り担当いたします。

(4) 室内楽

音楽の力による復興センター東北との連携による被災地域各地での室内楽公演を継続するとともに、平成28年度から継続している岩手県、宮城県、福島県の被災地域に音楽を届ける「みんなのまちのコンサート」では、3月に全面開通する三陸鉄道リアス線沿線において、ドヴォルザークの「家路」をテーマとした企画「ゴーイングホーム・プロジェクト」を新たに展開してゆきます。加えて地域のニーズに合わせて各種室内楽活動を行います。

(5) その他

被災地のオーケストラとして、平成26年4月から続けている「復興パートナーシート」の設置を平成31年度も継続していくとともに、「音楽の力による復興センター・東北」と連携し音楽による復興支援活動に引き続き務めてまいります。また平成28年からスタートした仙台市中央卸売市場花き運営協議会、宮城県花卉商業協同組合とのコラボレーション企画「くらしに花をそして音楽を」を本年も継続、毎回定期演奏会のロビーで生花のデコレーションで多くの方々に楽しんでいただき、毎年11月には被災地熊本JAとの連携によりカスミソウを来場者に配布して引き続き熊本を応援してゆきます。

3. 青少年等の音楽鑑賞及び演奏等に関し指導を行い、その普及を図ること

(1) 青少年のためのオーケストラ鑑賞会

平成31年度も仙台市教育委員会の依頼により、「青少年のためのオーケストラ鑑賞会」を、仙台市内の小学校5年生と、中学校1年生を対象に日立システムズホール仙台において14公演開催します。このコンサートでは、事前にそれぞれの参加校に入場券を配布し、児童、生徒は一般コンサートの入場と同じように

入場時にそれぞれがチケットを持って入場することで、オーケストラ鑑賞会を通じて多くのことを体験いただき、学んでもらえるよう構成しています。

(2) 次代を担う子どもの文化芸術体験事業

平成31年度も文化庁の「次代を担う子どもの文化芸術体験事業」が採択となり、北海道、青森県、秋田県、岩手県、宮城県などの小学校や中学校を合計12校訪問し、本事業の趣旨に沿った演奏会を通じてオーケストラの素晴らしさを現地の学校に届けます。

4. その他目的達成のために必要な事業

(1) 演奏に必要な調査、研究

日本オーケストラ連盟加盟団体との各種情報交換に加え、文化庁、日本芸術文化振興基金へのヒアリングなどにより、当団の成長・発展と健全な運営に役立てまいります。

(2) 仙台フィルと第九をうたう合唱団

平成31年度も広く市民に広報を行い「仙台フィルと第九をうたう合唱団」の団員を公募いたします。合唱団はオーディションを経て編成したのち合唱指導を行い、仙台クラシックフェスティバルと年末の仙台フィル特別演奏会「第九」で共演いたします。アマチュアコーラスの立場ながら、参加する市民は世界的指揮者と同じステージに立つことによって自らのレベルアップを図ります。

(3) 仙台ジュニアオーケストラ

仙台フィルの団員が講師となり、各楽器のパート練習、及び弦楽器、管楽器、打楽器に分かれての分奏を指導し、全体の合同演奏では仙台ジュニアオーケストラの音楽監督が指導にあたります。仙台ジュニアオーケストラの指導を通して、音楽を志す児童、生徒の健全な育成に寄与してゆきます。

(4) その他

好評をいただいているエフエム仙台「仙台フィル Wave Symphony」は、平成31年度も番組内で聴取者に仙台フィルの演奏をじっくり聴いていただく形で継続されます。加えてTBC東北放送においても「エンジョイ！クラシック」の継続が決定いたしました。これらの放送媒体や仙台フィルのホームページのツイッター、フェイスブックなどSNSによる情報拡散を積極的に行い、仙台フィルの存在とクラシック音楽の素晴らしさを多くの市民に伝えてまいります。